

■ 学生支援

長野大学では、学業上の悩み、生活や友人関係の悩みなど学生をとりまくさまざまな問題を考え、解決していくためのしくみが整備され、「学生支援室」と「アドバイザー制度」があります。

「学生支援室」では、誰でも気軽に悩みを相談できます。ここにはスタッフが常駐する他、今後は学生スタッフも加わって一人ひとりの相談に応じ、悩みの解決に向けてサポートします。また、保護者の方からの相談も受けています。

また、「レポートの文章がうまく書けない」、「英語が苦手で授業についていく自信がない」、「(留学生が)日本語力に不安がある」など、学ぶ意欲はあるのに学ぶための技術や知識が不足していることで困っている学生もいます。そんな学生のために、授業に必要な基礎的学習ができる「課外学習プログラム」を用意しています。授業を受けるための基礎的な知識・技術を身につけることで学ぶ楽しみを見つけれられるようになります。

「アドバイザー制度」は、ゼミナールを担当する教員が、その科目を履修している学生のアドバイザーとして、学生のさまざまな相談に応じるシステムです。例えば、「授業についていけない」、「将来の進路選択に迷っている」など不安をかかえる学生に対して、アドバイザーの教員が相談窓口になります。その後、学生がかかえている問題に対して最善の解決方法を検討し、大学の各セクションが連携・協力して問題の解決に向けて組織的に支援します。

さらに、「夢チャレンジ制度」というユニークな学生支援もあります。好奇心やチャレンジ精神が旺盛な学生に対して、夢の実現を資金的にバックアップする制度です。「大学時代にこんなことがしてみたい」という企画書を提案し、採用されると最高30万円が支給されます。今年度の夢チャレンジャーには、「2009年スペシャルオリンピックス冬季大会に参加」、「タイ山岳民族の子どもたちの支援」、「地大根料理の新たな可能性への道(山口大根復活プロジェクト)」など6テーマが認定されました。

■ バリアフリーキャンパス

長野大学では、40名弱の障害のある学生が健常者と共に学んでいます。この人数は学生全体の約2%にあたります。この割合は日本でもトップクラスで、キャンパスを歩いていると、大学食堂やロビーなどで障害のある学生をよく見かけます。視覚や聴覚に障害のある学生、車いすを利用している学生など実にさまざまです。以前から障害者特別入試を実施して、積極的に障害のある学生を受け入れてきたからです。

彼らをサポートするのは「障害学生支援室」です。視覚障害のある学生には、テキストや資料などを点字に翻訳するサービスをし、聴覚障害のある学生には要約筆記やノートテイクなどのサービスをしています。近くの幼稚園に子どもを通わせているお母さんが昼間の空き時間にノートをとってくれたり、地域の要約筆記のグループが手伝ってくれたり。学生や地域住民が自由に行き来しながら支えあ



長野大学図書館

キャンパス散策 (長野大学)



■ 長野大学

長野大学は長野県上田市にキャンパスを構え、福祉のプロと福祉マインドをもった職業人を育成する「社会福祉学部」、環境・観光・ビジネス・地域づくりをキーワードに共生型社会を育む人材を育成する「環境ツーリズム学部」、企業や社会が必要とする実践的な問題を解決できる人材を育成する「企業情報学部」の3学部があります。それぞれ体験型の学習スタイルを取り入れて、少人数教育を行っています。

また、「長野大学憲章」として、次の5項目を挙げています。

- (1) 教養ある職業人の育成
- (2) 学生が「自己成長を楽しむ」ことができる支援体制の追求
- (3) 未来を拓く学生主体のキャンパスづくり
- (4) 地域に貢献する学術研究の展開
- (5) 構成員の主体的活動による「知の共同体」の構築



福祉



環境



情報

ているのです。

また、学内に点字ブロック、車いす昇降機、車いすトイレ、点字表示プレートを設置するなど、施設整備をはじめとして30年以上も前からバリアフリーのキャンパスづくりを進めてきました。

さらに、インターネットなどの情報環境におけるバリアフリーも整備し、休講情報など携帯電話でアクセスできるほか、いくつかの講義は文字情報として学内サーバーから配信しているので、学生はインターネットで講義を復習できます。

長野大学では、今後も一人ひとりの学生がそれぞれ快適なキャンパスライフを送ることができるよう、ハード面でもソフト面でも支援していきます。

授業風景

